

メールマガジン

第三号

2006/6/19

1 目次

- トピックス
- 九州大学中国同窓会理事・監事選挙規程【案】
- 中国との交流ネットワークの拡がり
- 飛躍する中国に成長する九州大学OB

2 メールマガジンへの寄稿

九州大学北京事務所では、中日研究・教育や九州大学OBの活動に関する情報、集会やイベントの案内など、メールマガジンの原稿を募集し、九州大学教職員・OB及び関係各位に配信します。ご寄稿くださる場合は、電子メールまたはファックスにて、九州大学北京事務所宛にお送りください。電子ファイルを添付していただくと、編集が効率的にできます。

3 事務所だより

九州大学中国同窓会理事の改選規程へのご意見伺い
本年は、理事（任期2年）改選の年に当たるため、会則に従い、9月9日の総会の前に理事選挙を実施する予定です。理事の改選を円滑に行うために、九州大学中国同窓会理事・監事選挙規程【案】を作り、本誌に掲載しました。つきましては、会員の皆様に本誌に載せた理事・監事選挙規程【案】をご覧の上、ご意見やコメントがございましたら、7月10日まで電子メールまたはファックスにて九州大学北京事務所宛に送って頂きますようお願い致します。

編集代表者：九州大学北京事務所長 九州大学中国同窓会事務局長 宋 敏
発行：九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局
住所：〒100086 北京市海淀区中関村南大街甲6号铸诚大厦B座2008室
電話：+86-10-5158-1387 ファックス：+86-10-5158-1367
メール：peiking_office@yahoo.co.jp (日语) kyudai_office@yahoo.com.cn (中文)

トピックス

1

文部審議官との夕食会

5月25日、文部科学省の林幸秀文部科学審議官が、東大医科学研究所と中国科学院との共同施設開所式出席のため北京に来訪されました。この機会に、林審議官、自ら希望されて、北京に駐在している日本の大学関係者との夕食会を行いました。夕食会では食卓を囲みながら、北京に駐在している日本大学等の事務所や同窓会の運営現状、課題などについて意見交換を行いました。

夕食会には林文部科学審議官のほか、松尾 ライフサイエンス課長、新貝 ライフサイエンス課調査員、岩佐 日本大使館書記官、神田 日本大使館書記官、加藤 J S T北京事務所所長、梅村 東工大教授、早大・星野氏、九大・宋敏所長、創価大・川上氏が出席しました。

2

留日学人活動站春の遠足会及び図書貸与式

日本に留学したことのある中国人元日本留学生が、交流・情報交換のために、「留日学人活動站」という団体をつくって活動をしています。6月3日（土）、この団体により、恒例の遠足交流会が開催されました。遠足交流会には日本から帰国し、各分野で活躍している元留学生及び家族が数多く参加し、清の乾隆帝が32回も訪問した盤山という国家級重点風景名勝地を訪れ、北京近郊の春を満喫しながら、交流を深めました。

なお、遠足交流会への出発に先立ち、集合場所の留日学人活動站弁公室において、日本大使館が留日学人活動站到に貸し出す学術図書約50万円相当の贈呈式を開催しました。

3

壮大な内モンゴル草原に癒される

6月の初の週末、加藤芳宏、神田忠雄、宋敏、賀文君一行4人が内モンゴル草原を訪問しました。壮大な草原の悠々たる遊牧の暮らしに感動され、都会の荒波を忘れ、心身とも癒されました。



目が愛くるしい子牛



地元の素朴さに囲まれる



宴一歌と酒一



砂漠化、人類生存の脅威



水、生命の源

トピックス

4

九州大学アジア総合政策センター坪田邦夫教授来所

6月12日、九州大学アジア総合政策センター坪田邦夫教授が来所、宋敏所長と日中韓の共同研究に関する準備について話し合いました。

坪田教授は1972年4月農林省に入省、1974年4月国際連合食糧農業機構（FAO、ローマ）準専門家、1976年4月農林水産省食肉鶏卵課、大臣官房総務課、経済企画庁物価局物価調整課、1982年8月経済協力開発機構（OECD、パリ）農業局エコノミスト、1986年4月農林水産省大臣官房企画室室長補佐、1988年9月世界銀行（WB、ワシントン）ラテンアメリカ局エコノミスト、1990年4月アジア開発銀行（ADB、マニラ）農業局プロジェクトエコノミスト、1993年4月農林水産省農業総合研究所海外部開発途上地域第1室長、1996年8月農林水産省

国際農林水産業研究センター（JIRCAS）海外情報部長、1999年4月国際連合食糧農業機構（FAO、ローマ）社会経済局比較農業開発課長、2002年4月アジア生産性機構（APO、東京）農業部長等の要職を経て、世界で輝かしいキャリアを積んできました。2006年4月現職に就任し、アジア共同研究体制構築に奔走中。

事務所での会談後、一緒にアジア開発銀行北京支店長主催の夕食会に出席しました。



5

北京事務所会議及び職員懇親会

6月18日（日）、九州大学北京事務所で会議及び職員懇親会は開催されました。会議では宋敏所長が事務所の運営近況を報告した後、9月に控えている同窓会総会への準備作業及び理事の改選事項、事務所と同窓会HPの運営現状と課題、中日科技・文化・教育に関する実態調査プログラムの実施状況、留学関連業務の展開、中日文化交流プラザ設置の準備作業等について真剣に討論し、関連事項について決議しました。

会議終了後、事務所スタッフやボランティアによる懇親会が開かれ、スタッフ同士の交流を深めました。



■ 理事・監事選挙規程【案】 ■

1. 本会会則第6条に定める理事・監事選挙については、会則に定めるもののほか、この規程による。
2. 会長は選挙管理委員会委員若干名を任命し、選挙管理委員会を組織する。
3. 選挙管理委員会は会長の命により選挙に関する事務的処理を行なう。
4. 理事および監事の候補者は理事会の推薦による。
 - 1) 理事会は理事および監事の候補者を正会員の中より推薦する。
 - 2) 推薦に際しては理事と監事の区別はつけないものとする。
5. 選挙管理委員会は理事会の推薦に従って理事・監事候補者の名簿を作成する。名簿には空欄をつくり、選挙において、第4条により理事会の推薦する理事・監事候補者以外の者を記載できるものとする。
6. 各正会員は第5条の候補者名簿のなかから、改選定員数またはそれ以下の理事・監事を選挙する。

各正会員による選挙に際しては理事と監事の区別をつけないものとする。

特に候補者名簿に記載されていない者を選挙したいときは、その氏名を名簿の空欄に記載することができる。
7. 選挙管理委員会は正会員の投票結果を得票順に改選定員数まで配列し、名簿を作成する。最下位に同点者があり、改選定員数の候補者が決まらない場合は、年長順に決定する。決定された候補者を理事・監事選挙結果として理事会に提出する。
8. 理事会は第7条において作成された理事・監事選挙結果より新しく選出される理事・監事を決定する。
9. 選出される理事・監事により会長、副会長、常務理事等および監事を次のごとく決定する。
 - 1) 理事会は選出される理事・監事から次期会長を議決を経て決定する。
 - 2) 前項により決定した次期会長は、選出される理事・監事のなかから次期副会長を指名し、理事会の議決を経て決定する。
 - 3) 理事会は、選出される理事・監事のなかから会長および副会長を除き、その中から新しく選出される監事を議決を経て決定する。
11. この規程を変更する場合は理事会の議決を経ることを要する。

付 則

この規程は平成 年 月日から施行する。

2006年4月28日、九州大学と東北師範大学の間で大学間学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結した。それに続いて、6月5日、九州大学法学院と山東大学法学院との間に学術交流協定を結んだ。これにより、2006年6月現在、中国では九州大学の交流協定校（所）は延べ56校（所）に昇った。そのなか、大学間の交流協定を締結している大学は20校あり（表1を参考）、部局間の交流協定を結んでいる大学や研究所は36校（所）になった（表2を参考）。九州大学はこれらの協定大学や研究所を通して、研究者・学生の交流や学術情報・資料の交換など活発な日中交流を展開している。

九州大学と中国の大学や研究機関との国際交流は、今から24年前、つまり1982年7月16日に西安冶金建築学院（現西安建築科技大学）と学術交流協定を締結した

時に始まった。その後、大学間協定も学部間協定も漸次増え続けており、1980年代末頃になると、協定校は8校、学部間協定学校は13校になった。しかしこの時期の交流内容から見れば、主に学術交流に偏っていて、学生交流協定を締結した大学はなかった。1990年代、大学間協定は中国科学技術大学だけであったが、部局間協定を結んでいる大学が11校あった。その間、学生交流も国際交流の一つの柱として盛り込まれた。したがって、華南理工大学、新疆師範大学及び清華大学のように80年代に学術交流として始まったものが、90年代に交流を発展拡大させ、学生交流協定を追加したものもあった。21世紀に入ると、大学間協定も学部間協

表1 九州大学と協定締結学校

大學名	学術交流協定締結期日	学生交流協定締結期日
中山大学	1984. 11. 12	
華南理工大学	1985. 6. 25	1996. 1. 10
華南農業大学	1985. 6. 25	
北京大学	1985. 12. 25	
吉林大学	1986. 10. 4	
新疆師範大学	1986. 11. 27	1995. 9. 18
北京師範大学	1986. 12. 22	
清華大学	1989. 11. 27	1995. 9. 29
中国科学技術大学	1995. 10. 26	
香港大学		2001. 4. 16
香港中文大学		2001. 4. 23
国立台湾大学		2001. 4. 18
四川大学	2001. 10. 25	
浙江大学	2002. 3. 18	2002. 3. 18
上海交通大学	2002. 9. 29	2002. 9. 29
復旦大学	2003. 9. 22	2003. 9. 22
中国人民大学	2004. 6. 18	2004. 6. 18
南京大学	2004. 10. 25	2004. 10. 25
北京航空航天大学	2005. 3. 28	2005. 3. 28
西安交通大学	2005. 4. 27	2005. 4. 27
東北師範大学	2006. 4. 28	2006. 4. 28

■中国との交流ネットワークの広がり■

定も再び急増した。2000年から2006までの6年間、大学間協定を締結している大学が11大学、部局間協定を締結している大学や研究所は12校（所）に達している。部局間における交流内容は学術交流にとどまっているものは多いが、大学間協定には殆ど学生交流を盛り込んでおり、教職員の交流だけではなく、学生交流を重視する傾向も伺える。

表2 九州大学と部局交流協定締結学校

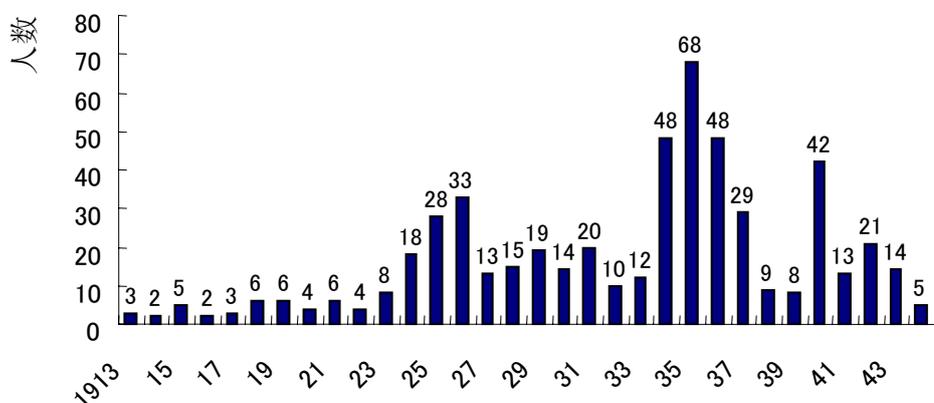
大学名	学部名	学術交流協定締結期日	学生交流協定締結期日
西安冶金建築学院（現西安建築科技大学）	工，総	1982. 7. 16	
中国協和医科大学	医	1984. 3. 8	
江西医学院（現南昌大学医学院）	医	1984. 12. 11	
中国医科大学	医	1984. 12. 24	
北京工商大学	経	1985. 5. 17	
中国薬科大学	薬	1985. 10. 11	
山東科技大学	理，機	1985. 12. 11	
暨南大学文学院	文	1985. 4. 5	
上海第二医科大学口腔医学系（現上海交通大学医学院）	歯	1986. 6. 8	
大連理工大学	理，工，総	1987. 7. 1	
江西医学院口腔医学系（現南昌大学医学院）	歯	1987. 11. 11	
華東師範大学教育科学学院	育	1988. 10. 10	
原子力工業省西南物理研究所（現核工業西南物理研究院）	応用	1989. 1. 12	
北京言語文化大学（現北京語言大学）	言	1991. 1. 9	
哈爾濱医科大学	生医	1992. 7. 21	
雲南農業大学	農	1993. 11. 4	
中南林学院（現中南林業科技大学）	農	1993. 11. 5	
西南農業大学（現西南大学）	農	1994. 4. 20	1999. 4. 7
南京林業大学	農	1995. 5. 13	1996. 12. 20
厦門大学化学化工学院	工，総	1996. 12. 6	
西北農業大学（現西北農林科技大学）	農	1997. 10. 9	1998. 1. 18
北京科技大学	工，情報，総	1997. 11. 27	
中国科学院プラズマ物理研究所	応用	1999. 9. 6	
第四軍医大学	医	2000. 2. 23	
瀋陽薬科大学	薬	2001. 9. 7	2001. 9. 7
南京理工大学機械工程学院	工芸美術	2002. 11. 22	
中国科学院水利部水土保持研究所	農	2003. 8. 9	
南開大学经济学院	農	2003. 8. 25	
国立台湾大学図書館	図	2003. 10. 31	
上海大学外国語学院	人環	2004. 1. 27	
上海社会科学院法学研究所	法	2004. 6. 4	
中国農業科学院農業資源与農業区画研究所	農	2004. 12. 24	2004. 12. 24
華東政法学院（現華東政法大学）	法	2005. 1. 11	2005. 1. 11
華東師範大学歴史系	人文	2005. 8. 8	
山東大学東方考古研究センター	人文	2005. 8. 20	
山東大学法学院	法	2006. 6. 5	

■飛躍する中国に成長する九州大学OB■

このたび、九州大学北京事務所は、九州大学中国人OBの情報収集を行ったが、卒業後の異動や変更が激しく、OBに関する情報収集が容易な作業ではないということが改めて分かった。手元の情報はまだ完全ではないが、今まで入手した情報に基づいて、簡単に整理し、分析を試みた。

さて、時間を遡って見れば、1911年、九州大学が創設され、1913年に3名の中国人留学生を受け入れた。したがって、中国人の九州大学への留学は九州大学の創設とほぼ同時に始まったとも言える。その後の100年にも近い留学歴史は大

九州帝国大学入学中国人数（延べ498名）



折田悦郎等編「九州帝国大学留学生名簿」より整理

年度

中国人留学生の推移



■飛躍する中国に成長する九州大学OB ■

大きく戦前と戦後との二つの時期に区分できる。まず、留学生人数を時期別に分けてみれば以下のことが分かる。1913年から1945年までの32年間、九州大学に入学した中国人留学生が延べ498名であった。その間、1936年にピークの68人に達した後、戦争などの影響で、減少傾向に転じ、1945年になってから、全く中断した。終戦後、また文化大革命などの中国国内の事情で、こうした中断状況は1970年代末までに続いた。幸いなことで、1977年に中国では大学選抜試験が回復され、教育改革や改革開放政策が次々と登場した。それらのことを背景に、1981年から中国人の九州大学への留学は36年ぶりに再開した。最初は留学人数が少なかったが、1990年代に入ると、急速に増加し、2003年にピークの156人を記録した。（図1を参照）

次に、学部別の中国人留学生人数の比率を表1にまとめた。同表に見られるように、工学部卒の学生が最も多く、全体の21%を占めている。続いて、経済、医学、法学、情報、農学という順になっている。

表1 学部別の卒業生比率

学部	%
工学	21.20
経済	11.08
医学	10.18
法学	6.96
システム情報	6.64
農学	6.06
比較社会文化	5.67
人文科学	5.35
総合理工	4.64
人間環境	3.80
理学	2.58
生物資源環境	1.87
薬学	1.74
教育	1.35
歯学	1.29
言語文化	1.16
芸術工学	1.10
数理学	0.90
その他	6.44
合計	100.00

表2 地域別の卒業生

地区	比率%
北京	30.95
遼寧	11.00
上海	9.72
広州	5.37
江蘇	4.86
四川、重慶	4.60
吉林	4.09
浙江	3.84
湖北	3.58
陝西	3.32
山東	2.81
広西	2.05
黒竜江	1.79
山西	1.53
福建	1.53
江西	1.53
河北	1.28
天津	1.02
河南	1.02
安徽	0.77
内モンゴル	0.77
青海	0.51
云南	0.51
新疆	0.26
寧夏	0.26
その他	1.02
合計	100

■飛躍する中国に成長する九州大学OB ■

一方、近年中国経済の高度成長に伴って、卒業後の帰国留学生も増えつつある。卒業生の中、卒業後の進路などの情報を把握しているのは757人である。そのうち、日本を始めとする海外諸国に就職、または進学している卒業生は348人で、帰国卒業生は409人であり、それぞれ46%と54%を占めている。帰国人数は海外滞在人数を上回っているように見える。

また、帰国九州大学OBの就職先を調べたところ、九大OBはチベットを除いたすべての30省市自治区にも居られ、全国各地で活躍している。地域別の卒業生の割合を見れば、北京は30%を占めており、全国各地でトップ。続いて、遼寧、上海、広州などの順となっている（表2）。職務内容から見れば、研究、教育に従事している人は圧倒的に多く、全体の61%を占めている（図3）。

九州大学OBの中には、昔は郭沫若先生を始めとする、数多くの偉大な先人を輩出し、現在では、中国工程院院士、大学総長の他、中国経済の急成長に伴って、数多くの新進気鋭の若手研究者や若き実業家が成長している。なかには、次代を担う若手研究者の育成を狙いとした「長江学者計画」に採択された彭練矛（第一回）、查紅彬（第二回）、徐強、肖岩（第四回）、瀋永明（第五回）、楊槐（第六回）、夏慶友（第七回）等の有能な若手研究者が挙げられる。今後は益々各分野における活躍が期待されると思う。

図3 中国人卒業生の就職進路

